

# れきはく NEWS

vol.54  
2022.FEB

島根県立古代出雲歴史博物館の  
旬な話題や情報をお届けします

Shimane Museum of Ancient Izumo

## CONTENTS

- 2 企画展「出雲と都を結ぶ道 ー古代山陰道ー」
- 4 展覧会通信
- 5 令和4年度展覧会のご紹介
- 6 学芸員通信/れきはく通信
- 7 古代文化センター通信
- 8 SHOP INFORMATION  
祝15周年!開館記念先着プレゼント

【企画展】

# 出雲と都を結ぶ道

古代山陰道

重要文化財 隱岐国駅鈴  
徳岐家宝物館蔵



重要文化財 彩絵檜扇  
佐太神社蔵



重要文化財  
伊福吉部徳足比売骨蔵器  
東京国立博物館蔵  
写真提供:東京国立博物館  
Image:TNM Image Archives



藤原宮跡・平城宮跡出土  
荷札木簡(複製品)  
原品 奈良文化財研究所蔵



久宝寺遺跡出土 準構造船(複製品)  
(公財)大阪府文化財センター蔵

令和4年 3月18日(金)~5月15日(日)



【企画展】

# 出雲と都を結ぶ道

## — 古代山陰道 —

**会期** 令和4年3月18日(金)～5月15日(日)

◎開館時間／9:00～18:00

◎会期中の休館日／4月19日(火)

**会場** 島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

**主催** 島根県立古代出雲歴史博物館

道路は現代の私たちの生活や文化を支える重要な社会基盤ですが、古代でも同様に国家を維持するうえで重要な施設でした。特に古代の高速道路といわれる「**駅路**」は、都と地方を結び多くの人や物、情報や文化などが往来して国家を支えました。近年、山陰両県では「**駅路**」を含む道路遺構の発見が相次ぎ古代交通の解明が進みつつあります。今回の企画展では山陰の「**駅路**」やその他の交通関係の文化財を取り上げ、交通網が果たした役割を紹介します。



【重要文化財】隠岐国駅鈴  
億岐家宝物館蔵

### プロローグ 地方と都を結ぶ道 — 駅路 —

古代の日本では中央集権体制を整えるため、広域行政区画の五畿(大和、山城、摂津、河内、和泉)七道(東海道、東山道、北陸道、山陰道、山陽道、南海道、西海道)が定められ、同時に都と各地を結ぶ幹線道路の「**駅路**」が七道ごとに建設されました。「**駅路**」は幅員が広く直線的な道路で、山陰道の場合は幅員が9mあったと推定されています。広大な「**駅路**」の建設は国家の一大プロジェクトでした。

主な展示品 ●【重要文化財】隠岐国駅鈴(億岐家宝物館)



【重要文化財】伊福吉部徳足比売骨蔵器  
東京国立博物館蔵  
写真提供：東京国立博物館  
Image：TNM Image Archives



大座西遺跡 2号墳出土品  
隠岐の島町教育委員会蔵

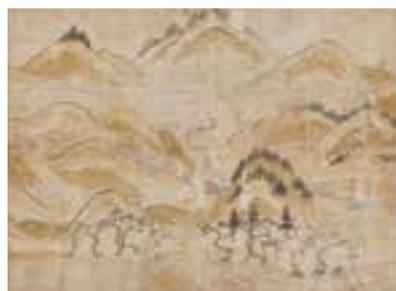
### 第1章 山陰道を往く

古代の山陰道は丹波国(京都府中部など)・丹後国(京都府北部)・但馬国(兵庫県北部)・因幡国(鳥取県東部)・伯耆国(鳥取県西部)・出雲国(島根県東部)・石見国(島根県西部)・隠岐国(島根県隠岐郡)の8か国から構成されます。本章では出雲国以外の山陰道の各国を象徴する文化財を紹介します。

主な展示品 ●【重要文化財】伊福吉部徳足比売骨蔵器(東京国立博物館)

●【亀岡市指定文化財】出雲神社勝示図(出雲大神宮)

●大座西遺跡2号墳出土品(隠岐の島町教育委員会)



【亀岡市指定文化財】出雲神社勝示図 出雲大神宮蔵



【重要文化財】銅印「隠伎倉印」  
億岐家宝物館蔵

### 第2章 出雲国を往く

中央集権体制では、都から地方へ派遣された「**国司**」が各国を統治しました。国司は国府という施設で政務にあたり、地方の有力者を統制しつつ、饗宴や神社等への献納などを通じて中央の文物を地方へ伝えました。本章では、国司の赴任に関わる儀礼や日常の業務、国司が巡行したであろう『出雲国風土記』に記載された交通網を紹介します。

主な展示品 ●【重要文化財】銅印「隠伎倉印」(億岐家宝物館)

●【重要文化財】彩絵檜扇(佐太神社)



【重要文化財】彩絵檜扇  
佐太神社蔵

### 第3章 様々な交通

交通とは人や物の移動であり、広義には情報の伝達も含まれます。特に古代では情報の伝達は人の移動と不可分でした。本章では古代の交通の多様なあり方について、陸上交通と水上交通に加え、情報の伝達について紹介します。

#### 主な展示品

- 藤原宮出土 頸木 (奈良文化財研究所)
- 久宝寺遺跡出土 準構造船 複製品 (公益財団法人大阪府文化財センター)
- 小立古墳出土 車輪 (桜井市教育委員会)



久宝寺遺跡出土  
準構造船 複製品  
(公財)大阪府文化財センター蔵



小立古墳出土 車輪  
桜井市教育委員会蔵



藤原宮出土 頸木  
奈良文化財研究所蔵

### 第4章 交通と信仰

地域の外と内を繋げ、良いモノも悪いモノももたらす道は時に信仰の対象であり、祭祀の場でもありました。本章では道路の遺跡で発見された文化財などを紹介し、当時の人々の交通路に対する信仰を考えます。

#### 主な展示品

- 山持遺跡出土 板絵 (鳥根県埋蔵文化財調査センター)
- 青谷横木遺跡出土 板絵 (鳥取県埋蔵文化財センター)
- オノ峠遺跡出土品 (鳥根県埋蔵文化財調査センター)



オノ峠遺跡出土品  
鳥根県埋蔵文化財調査センター蔵



青谷横木遺跡出土 板絵  
鳥取県埋蔵文化財センター蔵



山持遺跡出土 板絵  
鳥根県埋蔵文化財調査センター蔵

### エピソード 現代に繋がる道

古代に敷設された道路は中世や近世にも利用されるなど、後の時代に大きな影響を与えました。また、中央と地方を最短距離で結ぶという駅路の考え方は、現代の高速道路と通じる部分があり、駅路の路線と高速道路の路線が重複する事例もあります。本章では中世から現代まで受け継がれる道路について紹介します。

#### 主な展示品

- 絵はがき「津田の松原」



絵はがき「津田の松原」 当館蔵

● 新型コロナウイルス感染症の状況により、日程や内容等が変更になる場合があります。最新の情報は当館ホームページをご覧ください。

こちらもおすすめ!

## 特別展関連催事

### 関連講座

定員  
各60名 参加  
無料

#### 第1回

### 出雲国の古代官道

- 日時/3月19日(土) 10:00~11:30
- 講師/中村太一 氏 (北海道教育大学調布校教授)

#### 第2回

### 出雲国計会帳から探る 奈良時代の交通

- 日時/4月2日(土) 10:00~11:30
- 講師/市 大樹 氏 (大阪大学大学院教授)

#### 第3回

### 出雲国における 官衙と官道の展開

- 日時/4月9日(土) 10:00~11:30
- 講師/大橋泰夫 氏 (鳥根大学教授)

#### 第4回

### 発掘された 古代道路と山陰道

- 日時/4月23日(土) 10:00~11:30
- 講師/近江俊秀 氏 (文化庁主任調査官)

(会場) 古代出雲歴史博物館 講義室  
※オンラインで同時配信します

参加の際はマスクの着用をお願いいたします

### 関連体験イベント

定員  
30名

### 古代山陰道を歩こう!

古代山陰道の遺構が発見された杉沢遺跡をご案内します。

※歴博からバスで杉沢遺跡まで向かい、1時間程度現地を歩きます

- 開催日時  
4月17日(日) 13:00~15:30
- 集合・解散場所  
鳥根県立古代出雲歴史博物館 講義室
- 見学場所  
杉沢遺跡 (出雲市斐川町)
- 参加費  
企画展観覧料 (バスツアーは無料)
- 対象年齢  
小学生以上 (6年生以下は保護者同伴)

参加の際はマスクの着用をお願いいたします

関連講座・体験イベントに  
参加をご希望の方は、  
下記の方法でお申し込みください。

- お申し込み方法  
電話・FAX・ホームページのイベント参加フォームのいずれかで事前にお申し込みください。
- お申し込み先  
〒699-0701 鳥根県出雲市大社町杵築東99-4  
古代出雲歴史博物館  
TEL.0853-53-8600 FAX.0853-53-5350  
<https://www.izm.ed.jp>

【個人情報の取り扱いについて】  
この申し込みによって収集した個人情報は、鳥根県の規定に従って取り扱い、関連イベント・講座開催の目的にのみ利用するほかは、法令に定めがある場合を除いて、第三者に提供することはありません。

開 館 15 周 年 記 念 特 別 展

[令和4年度国立博物館収藏品貸与促進事業]

# ハニワの世界へようこそ

◎会期／令和4年7月1日(金)～8月28日(日)

■開館時間／9:00～18:00

■会期中の休館日／7月19日(火)・8月2日(火)

◎会場／島根県立古代出雲歴史博物館 特別展示室

◎主催／島根県立古代出雲歴史博物館

◎特別協力／国立文化財機構 文化財活用センター、東京国立博物館

出雲国出身の野見宿禰<sup>のみのすくね</sup>は、相撲の始祖として知られていますが、日本書紀には野見宿禰が殉死を改め、人や馬などの「土物」<sup>はにもの</sup>をつくらせて墓に立てたとする、埴輪の起源譚がみえます。この逸話は、考古学的事実と必ずしも一致するものではありませんが、出雲の地と埴輪の間に浅からぬ縁があると考えられることできるでしょう。また埴輪の存在は、古代の人々にとっても大きな関心事であったことがうかがえます。

古墳上に埴輪を立て並べる習慣は、前方後円墳が全国的に築造されはじめるのにあわせて各地に広まりました。出雲地方では古墳時代前期末（四世紀の終わり頃）、最初の埴輪が登場します。この頃の埴輪は、古墳上や周囲に並べて区画したり飾ったりする意味合いが強く、形も筒状に作られた円筒埴輪など比較的シンプルなものでした。しかし時代を経て埴輪の役割はより複雑になっていきます。武器や儀式に使う道具を模したものや、家を模った埴輪の登場は、古墳に葬られた者の力を象徴的に示すものだったと考えられます。

古墳時代後期には、古墳の一角を区切り、多彩な埴輪を並べ、被葬者の生前の活躍や首長継承のまつりを再現するようになります。馬や鶏などの動物や、様々な装いの人物を模った埴輪は、より表情豊で個性的なものとなりました。

本展では山陰地方出土の形象埴輪を中心に、人物や動物をかたどった様々な埴輪を展示します。制作時期や地域毎の特徴や違いといった考古学的な点だけでなく、個々の埴輪が持つ造形としての面白さにも注目してください。とぼけた表情や、絶妙にデフォルメされた姿など、ちょっと気になるチャームポイントがきっと見つかるはずです。もしかすると、身近なあの人に似た埴輪があるかもしれません。

さあ、この夏はハニワの世界を探検してみましょう。



人物埴輪

松江市岩屋後古墳出土(東京国立博物館蔵)  
Image : TNM Image Archives  
明治時代に発見され、旧帝室博物館(東京国立博物館)に収蔵された埴輪



鹿形埴輪

鳥取県上下211号墳出土(鳥取大学蔵)  
鳥取県立博物館保管

人物埴輪

茨城県水戸市出土(東京国立博物館蔵)  
Image : TNM Image Archives



【重要文化財】

馬形埴輪

埼玉県熊谷市出土(東京国立博物館蔵)  
Image : TNM Image Archives



猿形埴輪

鳥取県大山町ハンボ塚古墳出土  
(大山町教育委員会)



昨年度も新型コロナウイルス感染症拡大のため、三密の回避や感染症拡大地域などへの旅行を慎む生活が続きました。このような状況下、古代出雲歴史博物館では、企画展の関連講座の同時配信や「おうちでれきはく」ページなど、オンライン上のコンテンツの充実に取り組んできました。新型コロナウイルス感染症は10月以後一息ついていましたが、オミクロン株の流行で今年も先行きが見えない状況が続いています。

中国の伝承では、端午の節句に邪鬼の侵入を防ぐために蓬で作ったトラの人形を家の門にかけたといわれます。日本でも子どもの健やかな成長を祈る縁起物として張り子のトラなどが飾られました。トラに禍や病を防ぐ願いをかけていたのです。今年も古代出雲歴史博物館が開館して15年という区切りの年です、今年がより良い年になるよう干支であるトラにあやかりたいものです。

さて、寅年 令和4年度の春には、企画展「出雲と都を結ぶ道—古代山陰道—」を開催します（会期：令和4年3月18日～5月15日）。古代においても道は社会を維持する上で重要なインフラでした。特に古代の高速道路ともいわれる「駅路」は国家プロジェクトとして整備され、都と地域を結んで多くの人・モノ・情報が交流しました。近年、山陰両県では駅路を含む道路遺構の発見が相次いでいます。この企画展では、山陰の駅路やその他の交通関係の文化財を取り上げながら、古代の交通網が果たした役割を紹介します。

夏には開館15周年記念 特別展「ハニワの世界へようこそ」を開催します（会期：令和4年7月1日～8月28日）。埴輪は、出雲国の人 野見宿禰が殉死を改め、人や馬などの「土物」を作らせ、墓に立てたことがその起源だとされています。神話上の逸話とはもかく、埴輪を墓（古墳）上に立てる習慣は古墳時代に始まり、古墳時代後期には被葬者の生前の活躍などを再現するなど、埴輪は多彩なものに変化していきます。特別展では、このような歴史的な背景を紹介しながらも、夏休み中の子どもたちも楽しめるように馬・鹿・鳥・人物といった埴輪そのものの造形の面白さに着目します。25年ぶりの里帰りとなる岩屋後古墳（松江市）出土の人物埴輪や重要

文化財の馬埴輪はじめ5頭の馬が集結するなど見どころ満載です。

秋には、古代史において、ならび注目されてきた2つの地域、出雲と吉備から地域統合や日本の国家形成を考える企画展「出雲と吉備（仮）」（会期：令和4年10月7日～12月4日）を開催します。どちらの地域も弥生時代後期中葉に、全国に先駆けて青銅器の祭祀をやめ、巨大墳墓の造営を行います。また古墳時代後期以後、東アジア情勢の緊迫化に伴ってヤマト王権の直轄地としてミヤケが開発されるなど、王権にとって両地域の重要性は高まったと考えられます。この2つの時代にスポットを当てながら、古代における両地域の役割を紹介していきます。なお島根県教育委員会が研究協力協定を結んでいる岡山大学が、欧州研究チームと進める国際的な共同研究の成果の一部も併せて公開する予定です。

年が変わって春3月から開催するのは企画展「出雲神楽（仮）」（会期：令和5年3月24日～5月21日）です。島根の神楽はユネスコ無形文化遺産（佐陀神能）、日本遺産（石見神楽）に登録されているなど全国的にも有名です。その中でも出雲地方を中心に舞われる神楽、出雲神楽に着目します。出雲神楽は、能楽や歌舞伎などの要素を取り入れた娯楽としての演目とともに、神事的な演目や行事を今に伝えています。『古事記』や『日本書紀』などに記された神話を背景に持つ舞が中心、という印象があるかもしれませんが、このような神話と積極的に関連を見せるようになるのは、実は基本的には近代になってからなのです。展示では出雲神楽の歴史を物語る史料や神楽面などの道具類などを通じて、出雲の人々と神楽との関係を紹介していきます。また、コロナ下で実際に神楽を舞う機会が減った中で、どのように神楽を傳承しようとしているのか、現在の問題にもアプローチしていきます。

それぞれ、会期が近づきましたら詳しい内容をお知らせします。古代出雲歴史博物館では、感染症対策を徹底し安心して鑑賞できるように努めておりますので、是非、ご来館ください。

## ■企画展

## 出雲と都を結ぶ道 —古代山陰道—

令和4年  
3月18日(金)～  
5月15日(日)  
※会期中の休館日/4月19日

【重要文化財】 隠岐国駅鈴  
(徳島県宝物館蔵)



## ■特別展〈開館15周年記念〉

## ハニワの世界へようこそ

令和4年  
7月1日(金)～  
8月28日(日)  
※会期中の休館日/7月19日、8月2日

【重要文化財】 馬形埴輪  
埼玉県熊谷市出土  
(東京国立博物館蔵)



## ■企画展

## 出雲と吉備（仮）

令和4年  
10月7日(金)～  
12月4日(日)  
※会期中の休館日/10月18日、11月1日

【笠岡市指定重要文化財】 銅戈  
(笠岡市教育委員会蔵)



## ■企画展

## 出雲神楽（仮）

令和5年  
3月24日(金)～  
5月21日(日)  
※会期中の休館日/4月18日、5月16日



林木屋神楽資料  
(勝部一郎氏蔵)

館蔵品の紹介

# ヨーロッパの古地図に見る島根

これまで当館では、世界遺産石見銀山遺跡に関連する歴史資料を収集してきました。その中にはヨーロッパで作成された古い日本地図があります。特に16世紀以降、ヨーロッパに日本の地理情報が伝わり始めると、日本列島を掲載する地図が作られるようになりました。

館蔵古地図の中にダッドレーの日本図という資料があります。17世紀半ばに現在のイタリア・フィレンツェで作成された地図です。石見・但馬・佐渡・伊豆などの鉱山が書き込まれており、石見銀山関連の古地図として注目できます。

さらに注目したいのは、日本各地の地名も数多く記されている点です。今の島根県にあたる地域にはyasuqui(安来)、Tonda(富田)、Matzuda(益田)、といった地名が見えます。中世の富田は月山富田城の城下町、安来や益田は港町として栄えていましたが、17世紀にはヨー



館蔵古地図の一例「ダッドレー日本図」

ロッパでも知られていた様子がうかがえます。この地図は石見銀山だけではなく、島根と世界が結び付いた姿を示す好例といえるでしょう。

■主任学芸員 伊藤 大貴

# 入館者400万人を達成しました

古代出雲歴史博物館は、平成19年3月10日の開館以来、多くのお客様にご来館いただき、令和3年11月8日に400万人目のお客様をお迎えすることができました。

当日行った記念セレモニーでは、記念すべき400万人目の入館者となられた出雲市の森本恭一様に、多根館長より入館者400万人目の認定証と常設展の図録を贈呈しました。

また、マスコットキャラクター雲太くんからは、当時開催していた企画展「COME on 山陰弥生ライフ 一米作り、はじめました。」の図録や、この企画展にちなんで、仁多米や奥出雲の地酒、maru cafeのご利用券などを贈呈しました。

いよいよ令和4年3月10日には開館15周年を迎えます。ますますのご来館をお待ちしております。



多くの方にご来館いただきましたこれからもよろしくお願いいたします

！ 400万人 到達までのあゆみ

- 平成19年(2007) 3月10日 ●開館
- 平成22年(2010) 5月 2日 ●100万人達成
- 平成25年(2013) 6月 8日 ●200万人達成
- 平成28年(2016) 7月27日 ●300万人達成
- 平成30年(2018)11月 1日 ●358万人達成
- 令和 3年(2021)11月 8日 ●400万人達成

※358万人達成は、荒神谷遺跡出土銅剣数(358本)にちなんだもの



## ◎島根県古代文化センターの調査研究・情報発信事業について

### 甲の原遺跡の墨書土器

島根県古代文化センターが実施しているテーマ研究「古代隠岐の形成と特質」（令和2～4年度）では、昭和54～58（1979～83）年に隠岐で発掘調査された甲の原遺跡について再検討しています。

過去の発掘調査を再検討することによって、調査後の研究の進展で指摘された点を確認したり、時間的に制約のある発掘調査時点で見落としていた事実の新発見が期待できます。今回の検討では、文字の書かれた土器（墨書土器：写真）が新たに確認されました。

まず、甲の原遺跡について紹介したいと思います。この遺跡は西郷町の玉若酢命神社の東側に位置します。周辺には国府尾神社や国府尾城跡もあり、これらの事例から、甲の原とは国府の原で、この地に隠岐国府があったのではないかとされてきました。

昭和の発掘調査では、古代の役所の建物と思われる、大きな柱穴を持つ建物が見つかっています。しかし、この時代の遺物は少なく、それ以上の手がかりはありませんでした。このたび、少ない遺物の中から「郡□（□は判読できない文字）」と記された土器が発見されたのです。

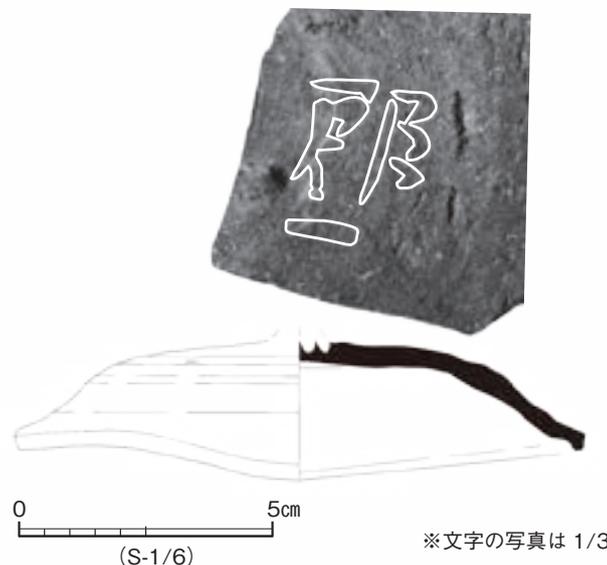
文字が書かれた土器は、奈良・平安時代の遺跡ではそれほど珍しいものではありません。ただし、文

字の書かれる理由は現代と同じで、その土器を所有・保管していた人や組織を示すことが多いようです。現在、隠岐諸島は隠岐郡のみの1郡ですが、昭和44年までは4郡からなり、遺跡の所在地は周吉郡でした。「郡」の下の文字は判読できませんが、この土器は周吉郡に関わる土器であると思われます。

さて、国の役所である国府の推定地から、なぜ周吉郡の墨書土器が出土するのでしょうか。お隣の出雲国については、『出雲国風土記』を読むと、出雲国府と国府が所在した意宇郡の郡役所（意宇郡家）が隣接して設置されていたことがわかり、出雲国府跡からも甲の原遺跡と同じように「郡」や郡名「意宇」を記した墨書土器が出土しています。国府と所在郡の郡家が隣接していたことは、武蔵国（東京都・埼玉県）や相模国（神奈川県）などでも推定されていますから、「郡□」の墨書土器も、この地に国府や郡家があったことを推測させる重要な発見と言えるでしょう。

テーマ研究「古代隠岐の形成と特質」は令和4年度まで実施し、現在新しい研究成果を蓄積中です。その成果をもとに古代出雲歴史博物館の企画展を開催する予定ですので、期待してお待ちください。

■島根県古代文化センター主席研究員 平石 充



※文字の写真は 1/3



## ▶「出雲国風土記 植物絵録」発刊！

こんにちは！ 古代出雲歴史博物館のショップです！  
 今回は、昨年9月17日に発行発刊された郷土書籍、宮倉・ヨリタ 誠さん（西伯郡南部町出身）の著書、「出雲国風土記 植物絵録」についてご紹介します。  
 日御碕神社に残された写本「出雲國風土記」には、733年当時の山野の草木が記載されていますが、本著ではそのうち125種の草木の解説と166種の植物画が掲載されています。  
 古代出雲・植物・ボタニカルアートに興味のある方には最適な一冊です。  
 ショップでは、郷土出雲に関する書籍など新しい商品を加えて皆様をお待ちしております。



出雲国風土記 植物絵録  
 (著者/宮倉・ヨリタ 誠) 税込 1,650円

## ▶バタデングッズ大量入荷！

今年のお正月からバタデングッズの取扱いが大幅に増えました！  
 バタデンこと一畑電車がモデルになった映画「RAILWAYS～」の公開は12年前の寅年でした。再び寅年を迎え、コロナに負けず、翼を得た虎の様に、更に強く走り回って貰える様に願いを込めて、当時の商品に新たな商品を加え、豊富な品揃えで販売します。  
 お馴染みのデハニのプルバックをはじめ、平成28年に導入された7000系のグッズなども取り揃えております。ぜひ旅の記念にどうぞ！



- プルバック(デハニ・7000系) 各1,570円
- 絵本(バタデンくんシリーズ3種) 各1,100円
- バタデン手拭(赤・緑) 各940円
- ラバーマグネット(5010号・7000系) 各750円
- ラバーキーホルダー(デハニ・しまねっこ号1003) 各530円
- 缶バッジ(5000系・7000系) 各330円
- デハニトートバッグ 1,570円
- バタデンくんトートバッグ 1,400円
- 一畑電車車両ラインナップA4クリアファイル 260円
- ぱたたびファイル 140円

※価格は全て税込です。



【開館記念】先着プレゼント

## 『木綿布』

先着  
75名様

古代出雲歴史博物館は、令和4年3月10日(木)に開館15周年を迎えます。

開館15周年のお祝いとご来場の方への感謝を込めて、当日、展示室へ入場の方先着75名様(チケット購入者、招待券・年間パスポート会員)に、国の登録有形民俗文化財の藍板締め版木の文様をモチーフとした木綿布をプレゼントします。

この木綿布は、島根と伝統工芸やデザインに詳しい平本映子氏から提供を受けた「竹に虎文様」です。藍締め40枚と渋締め35枚がありますのでお好きな方をお選びいただき、ぜひお部屋に飾ってください。

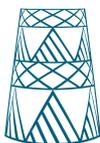


木綿布(藍締め)  
 幻の藍板木文様「竹に虎」



木綿布(渋締め)  
 幻の藍板木文様「竹に虎」

どこ行く? りんぱはく!



島根県立古代出雲歴史博物館

Shimane Museum of Ancient Izumo

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4  
 TEL.0853-53-8600(代) FAX.0853-53-5350  
 [URL] <https://www.izm.ed.jp> [E-mail] [contact@izm.ed.jp](mailto:contact@izm.ed.jp)  
 開館時間/9:00~18:00(11月~2月は9:00~17:00)  
 休館日/第3火曜日(変更の場合有り)



マスコットキャラクター  
 雲太くん



発行/令和4年2月



マスコットキャラクター  
 出雲ちゃん